



## 第45回九州インタークラブ競技大会

競技報告 (2015/10.14)

写真と記事 : M. Kikutake

### 「大博多CC」(福岡県南部)

### 2年連続14度目の優勝

### 逆転で2位「志摩シーサイドCC」下しての栄冠



### ベストグロス賞は

### 69で牛島中(志摩シーサイド)が獲得

第45回九州インタークラブ競技大会は10月14日、長崎県諫早市の長崎国際ゴルフ倶楽部(6795ヤ、パー72)で25倶楽部チームが参加して開かれ、トータルスコア370の「大博多カントリー倶楽部」(福岡県南部)が2位の「志摩シーサイドカントリー倶楽部」(同)に6打差をつけて2年連続、14度目の優勝を飾った。

出場選手中のベストスコアに贈られるベストグロス賞は、3アンダーの69で回った牛島中(志摩シーサイド)が大倉清(大博多)ら4人に1打差をつけて獲得した。

大会は連盟(GUK)主催競技の唯一の団体競技で、1チームは学生・生徒を除く6人(うち55歳以上3人)で構成され、このうちのベスト5人のトータルスコアで優勝を争う。11県地区で行われた予選にはGUKに加盟する計189倶楽部が参加。この中から、勝ち抜いた24倶楽部と開催倶楽部の計25倶楽部チームが本戦出場した。



## 2、3位は6人のスコア差

# 「チェリーゴルフ鹿児島シーサイド」は3打差に泣く

この日の長崎・諫早は晴れで気温 22.4 度、南南東の風 1m（正午現在）と絶好のコンディション。

各倶楽部の実力と名誉をかけた戦いとあって、各チームとも応援団が繰り出し、盛り上がった。

そんな中、「大博多」は「志摩シーサイド」に3打差をつけられて後半に折り返したが、久しぶりの出場となったエースの 54 歳、大倉清をはじめ、カウントされる5人のメンバーが実力を発揮し、逆転勝ちした。

福岡南部予選で大博多に9打差をつけての予選通過だった「志摩シーサイド」は、ベストグロス 69 の 50 歳、牛島中、63 歳のベテラン山浦正継が健闘したものの、他が実力を発揮できなかった。これに 376 の同スコアで「チェリーゴルフ鹿児島シーサイドコース」（鹿児島県南部）が並んだが、規定により6人全員のスコアで3打上回る「志摩シーサイド」が2位に滑り込んだ。



(写真は左から優勝の大博多、2位・志摩シーサイド、3位・チェリーG鹿児島シーサイドの各チーム)



## “ワン・フォー・オール”のラグビー精神で

### チームワークを発揮した大博多CC



「今年は無理かなと思っていた。いける（優勝できる）とは思わなかった」。2年連続 14 度目の優勝を決めて、勝因は？ と質問したところ、篠塚武久監督から返ってきたのは、こんな言葉だった。

それは謙遜（けんそん）でもなかった。というのが、福岡南部予選では「志摩シーサイド」に9打差とぶっちぎられての2位。この日の決勝大会でも、前半は「志摩」が3打差をつけて折り返していた。

2007 年日本ミッドアマ優勝の牛島中、2008 年九州シニア優勝の山浦正継、昨年の九州ミッドシニア優勝の 68 歳、上木政章

とベテラン勢が健在。

強力な「志摩」の布陣。逆に、自チームは「メンバーの仕事が多忙で」と全員での練習ができたのは1日だけ。出場メンバー確定も、エントリー提出ぎりぎりになってからだった。今年は無理かなと思ったのも無理なかったろう。

ところが、5年ぶりに出場した大倉が70で回れば、60歳のベテラン中山康弘がパープレー、32歳の若手、坪井卓哉と43歳江口信二が75とまとめ、終わってみれば6打差をつけての快勝だった。

で、再び、勝因はと聞くと、こんな話をした。試合前日、ラグビーワールドカップで大健闘した日本代表の帰国会見をテレビで見て、篠塚監督は「チームワークの素晴らしさに感動した。その話を試合前日のミーティングでした」という。「1人がみんなのために…」というラグビー精神は、チーム戦のインタークラブにも通じるのではないか。「1人ひとりが力を出して自分のゴルフをすればチャンスはある」と。

それぞれのメンバーが力を出しきるところが、大博多の強みだろう。「盛り上がる団体戦が好き」という篠塚監督だが、「世代交代を図りながら、来年からも頑張りたい」と言い切った。

## 「チームで勝ちたい」とベストグロスの牛島中選手

〇…4バーディー、1ボギーの69。「ショットが良かったし、順調にいった」と牛島中で、インスタートの13番で3パットしてボギーとしたが、15番から3連続バーディー。後半に入っても3番バーディーのあとはパーを重ね、「ドライバーでフェアウエーを外したのは1回だけかな。アプローチもよくピンについた」という。

しかし、やはり何といても、チーム戦で取りこぼしたのが悔しそうだった。「自分ができることのベストを尽くすことの大切さ。6人がそこそこでないと（勝つのは）難しい。来年はチームでの優勝を目指したい」と牛島だった。